味噌商

秋瑟々、長憶槍柴扉、

南都の僧始て味噌を嘗めて未曾有といひしより、味噌の名ありと、春臺紫芝園漫筆に載せ、一本堂藥選に和名抄の未醬を以て、味噌なるべしといひしも思ひ出らる、

〔延喜式四十二東市〕未醬〇中略　右井三匳西市

〔七十一番歌合上〕十八番　右　ほうろみそ賣

夏まではさし出ざりしほうろみそそれさへ月の秋をしるかな

うとくのみならの都のほうろみそほろ〳〵とこそねはなかれけれ

〔人倫訓蒙圖彙四〕味噌屋　簡板に節搔を出す、調味和する能あつて、人身の保養する處、一日も離べからざるものなり、

〔江戸總鹿子新增大全七〕江府名物井近國近在土產

御膳白味噌　神田れんじやく町　小田原や

所々家々に有といへども、此家を以て最上とす、

〔守貞漫稿六生業〕味噌屋

店ニテ賣ハ三都トモニ在之、擔ヒ巡ル賣ハ定扮ナシ、淺キ箱三五重ニ納ム、此賣京坂ノミニテ未江戸ニ見ズ、價十二文十六文廿四文卅二文四十八文百文許、以上ヲ數箇籜ニ裹ミ箱ニ納メ巡ル、蓋嘗味噌等トハ別賣ニシテ唯汁製ノ味噌ノミヲ賣ル、京坂ハ糀ミソニシ食之、特ニ麴多キヲ料理味噌ト云、饗客等ニハ用之、此二品ヲ賣ル味噌製造ノ巨戸ヨリ奴僕ヲ出シ賣ル也、故ニ陌上ニ呼ズ、專ラ得意ノ戸ニ問ノミ、

〔守貞漫稿後集食類〕味醬〇圖略

味噌屋招牌也、京坂今モ有之、江戸ニ無之、唯南傳馬町ノ味噌ヤ元結ト云、元結招牌ニ此形ヲ用フ、